



石印

第十四
山遊部

特別
冊 4
3979
10



4
3979
10



和列舊跡幽考

第十四卷 山邊郡

山邊里

末

廣高宮

鎮座 ○ 神庫 ○ 川上迎鉞 ○ 八尺瓊勾玉

○ 神階 ○ 紫 ○ 五色雲末

神宮寺

石上池

石上寺 付有常回

石上

穴穗宮

石上布留宮 付御

良周寺

石上瀨



印和ニセ
三十八

布留籠

布留山

古柄小野

布留川

長屋原

都介 付 将 櫛 伐 木 禁 削 奉

回村

木殿

二階堂

衾道

龍福寺

布留野

忘水

布留高橋

禁削奉

竹隈村 堀越

山邊御井

衾田墓

引平山

千塚

階奉

多田末連寺

延喜式神名帳

大和明神社 付 神

采久寺

笠間山

和列舊跡函考

第十四卷 山邊郡

山邊里

五二

懷中集

和列舊跡函考 第十四卷 山邊郡 山邊里 五二 懷中集 和列舊跡函考 第十四卷 山邊郡 山邊里 五二 懷中集

磯上寺

石上在原山本光明寺 在原業平朝臣後代の

跡一地よ寺代立ちしきけりやそ老よをさうとふ

あぐくすまのふき後ひ一井筒の流くまう人夜

もや春うひより越んと都とらまう千載とて高

ちど生こりの拾芥抄よの磯上寺ハ寶蓮寺と号

明寺ハ心やも堂一宇観音菩薩とよんり

因^つに紀^き有^{あり}常^{じょう}乃^の家^け地^ちは南^{なん}小^こあ^あび^びて^て苗^な世^せ画^わの
ありて有^{あり}常^{じょう}田^{でん}と^とう^うひ^ひき^きる

古今 乃^の石^い上^{じょう}寺^じありて

石^い上^{じょう}古^こ紀^きの^の耐^{たい}ち^ちの^の声^{せい}は^はり^りと^とし^しり^りあり^{あり} 素性法師

は^は秋^{あき}の^の場^ば書^かの^のあ^あら^らし^し石^い上^{じょう}寺^じあり^{あり}と^とう^うき^きり^り 心

え^えび^び奈^な良^ら都^との^の流^{りゅう}上^{じょう}郡^{ぐん}石^い上^{じょう}の^の水^{みづ}道^{みち}郡^{ぐん}あり^{あり}石^い

上^{じょう}と^とあ^あら^らし^しと^とう^うき^きり^り 只^{ただ}常^{じょう}良^らと^とう^う

て^てま^まれ^れば^ば石^い上^{じょう}遠^{えん}と^とう^うき^きり^り ね^ねは^はひ^ひと^とう^うき^きり^り 奈^な

良^らの^の石^い上^{じょう}と^とう^うき^きり^り 頭^{あたま}注^{ちゅう}

わ^わり^り原^{はら}寺^じ代^{だい}らん^{らん}と^とう^うき^きり^り 番^{ばん}勘^{かん}

昔^{むかし}より^{より}建^たた^たし^し時^{とき}代^{だい}人^{ひと}と^とう^うき^きり^り ね^ねは^はひ^ひと^とう^うき^きり^り 石^い上^{じょう}と^とう^うき^きり^り

石上

石上村とてわの^い上^{じょう} 古^こ事^じ 石上 日^{にっ}本^{ぽん}

家^け集^{じつ} 同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

同^{どう} 石上 公^{こう}

東乃山あり儼よりあり山と色々
げうたふはばさ乃陵と色々

穴穂宮

元恭天皇四十二年天皇弱冠あり
十二月人王女一代安楽天皇石上小都と
うはし後ひく穴穂宮とあり
年まで凡一千二百廿六年

廣多宮

人王女丑代仁賢天皇元年正月石上廣多
宮にて即位あり
帝王編年曰穴穂宮は山邊郡石上
大長乃家の西南古川乃南の地あり
廣多宮は同古長乃家の北あり田在

也あり今之
心むむなり

拾遺

石上

石上石上郡
石上石上郡

石上布留社

石上坐布留
鹿寫の神宮
同社
延喜

拾遺

十握劍ハ其名天好斬
又天尾羽張又

伊都之尾羽張
又藤靈劍又布都主神

魂刀又佐士布都又建布都又豊布都

又兼正又韓鋤劍又獲布都神

柀け劍乃盪觸ハ素多鳴
乃雲園ありてハ

改乃大蛇と云り後ふそ乃尾成云り後ふ付
よ劍の刃もあし鉄よりひるまればとてその尾
と割てんそまう強へば尾乃中よ劍あり是
草薙乃劍ありて毛長田熱田神あり蛇は
又天孫斬と云ふ大蛇と稱せし故あり
初ハ大蛇乃石上よゆりく記後ハ常陸乃鹿嶋
乃神宮よゆりま次正統
▲韓鋤乃劍のりこりハ鋤よ似て鉄よりけはあ
且又先師乃洗心ハ加良須改乃こりあん秋日本記
▲宍代布敷と名けしけり本はむし布敷
の川よ一乃劍あり色こり物よゆりこり
石本と云ふこりやうりかやこりこりよ

河川身よあやハ縣女布成わふあり
りその布ふまのれく劍乃ゆりゆり
神と稱布敷劍神と号し一も相と布敷
ハぬのふゆりゆりこりり威衰又布敷
やゆりは場實と云けりゆりゆり正統
手ゆりゆりありして布敷ゆりゆり
▲御鎮坐ハ人王十代崇神天皇乃御宇あり
御新乃御宇よ倭香色雄命宇麻志摩治大
長めて天社園社と云ふゆりハ十六世神
まつり大和園山逸群石上邑よゆりゆり
其神十種乃場實ハ宮産靈あり鏡
連日よゆりゆり其子味間息命味間
それより神武天皇よゆりて後ハ蘇我

石上の大神と号し國家あがめも所りなり
 舊事紀日本紀古事拾遺元々集神皇正統
 記等よくりあり又乃從人王十七代仁徳天
 皇の世布都主神社と石上乃御布都
 村乃庭乃地よひまひ支市川長延神主
 也新撰 氏録

▲神庫苗世こころ乃室社願よまらひ
 てあり高仁天皇八十七年二月廿十瓊敷余
 妹の大伴姫よひり我老女まは神室所り
 どもよるまのびまより後汝はくまを天
 神庫いまひく我弱女乃免ゆていりあて
 天神庫よのぼりまんや立千瓊敷余まら
 ありバ神庫り村とけりまんあ乃

うあらんやとあり神乃神庫よ隨樹村とは
 是そ乃縁あり日本 苗世室乃肉よ方之
 尺の槌あり神符よまらひまらひまらひ
 小瓶心しよ小劔あり
 ▲高仁天皇此九年五十瓊敷余茅渟菟
 磯川上の宮河内ゆて千の劔とけりま
 劔と川上部と名所を又裸伴と名をけ
 て石上神宮よ納た日本 同御宇八十七
 年丹波國桑田村の歎の腹よあり八尺瓊
 勾玉色安よ納た日本 其後天武天皇
 三年八月思壁皇子よおほまら石上の神
 宮の神室とあがらまらてまらせとめ後
 家より神府よけりまら寶物とそ

▲神階の貞観九年三月十日日本從一位紀

六等石上の神よ正一位とらり入所せ給ふ類

▲奈の當代六月晦日の浣布よおとほりし

なり又七月七日神あよ儀摩と修一室

乃乃及三員切て僧乃麻よけくせこ

多ひあり是と後とてと山永久寺

推尾山龍福寺ありびよ氏子五十余郷

乃僧寺の川よりて清き水なり奉よも修

▲貞観五年六月け社の南よみろの雲わ

と新くや三代實深ふんてり

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

石上神宮寺神宮寺

石上神宮寺の社とあり意とてけし更よもり

且大和國の田廿八所施入なり三代實録り

とゆら〜小川〜あり

石上池

いそのうろろ大御軍乃池といふ是なり

石上乃池乃逸よ鴻孫山法行に記す

廟塔をどののどろその時新明天皇六年あり

日本 延寶七年より延元一千十のあり

石上溝

いぢ乃上のふた所東寺井川是なり

石上の溝なりハ履中天皇四年十月あり

日本 延寶七年より延元一千三百十年あり

布敷龍

依小桃尾乃跡といふその上より一里あり

仁和帝御子よあり海けり時あり

トよ海けり海けりといふを龍いさるよあり

古介 わが所であるも同勝よ水海うもあり

白川百首 今も又行てもんがや石上も此跡龍を記す

龍福寺

桃尾の跡乃逸寺領五十石

桃尾山龍福寺ハ行基菩薩乃開基とあり

観音菩薩とあり新書よは龍福寺ハ

義剛僧正乃開基とあり

布敷山 石上振の山なり松村の昔ひるべ記あり

寛和上寺合 秋時布敷乃山里のあじ人今も神のゆえ

布敷野

桃尾より行道乃龍乃馬場といふあり

野あり

石上郷野の道は草叢して清流汲み交りて入る
堀川太師
千五百番奇合
お月雨れもの中道中へまぎら草叢もらんは師家隆
拾玉
白西やあまの野乃事かたていそくそは二橋の慈眞
草根
個のこもの野の霧は海に梅は海に秋波流よとて人正節
石上小野
右柄小野

石上より小野を野乃をより石上あり
の中道ともありうろ小野とは枯野
也つややらとこれと同一音布敷の乾
つれ野とつよよや頭註
長谷よりうろ小野の本柗とよ海や秋波流よとて人正節
忘水
新後撰
ひらへ布敷の流乃忘水よ今更よや人正節

散本集
お月雨のちうろ小野の忘水よ流にそは秋波流よとて人正節
後撰

水上の柗尾跡より西へおれ川合村より
布敷川
長屋原

お月雨のちうろ小野の忘水よ流にそは秋波流よとて人正節
師兼千首
お月雨のちうろ小野の忘水よ流にそは秋波流よとて人正節
長屋原

永原村とてありし長屋原は長谷
もや倭者類聚新編日記後紀等よ
山邊郡
和洞三々二月藤原家よの寧樂宮

ようけり後々の対長屋をあらして古
とくりと移ひく

徳子の明日香里に於ては天皇

都介

三代實録倭名類聚よ山邊郡と云く

一に取まき

都介の侍所乃新宮御京に對大和國都介乃

於宮より侍所と成りしに家次あり

▲都介野の天長兼和の代に攝一奉

於半紙禁制と云くありしに

慶六年九月於將し半紙拂ふ事紙割と

云く京事紙中りゆと云く後小

三代
實録

田村

為世田村一郷あり石上より一里南

田村の大納言藤原朝長仲麻呂乃家あり勝

室四年四月東大寺の大佛開眼佐養と云

極天皇行幸御しして

還幸ありしに

仁天皇室龜六年三月同八年三月は田

と云く妻乃御つけ祿と云く

史よ

作新村堀越

天平十二年十月侍所國よ行幸乃時山邊

郡作新村乃堀越乃於宮よ入を後

本殿

本殿村にあり石上より十五石所

海神の海よりけりたまふの事ありて
しるしとて傳へけり人難とありて
いひ多しハ春入とてそよめ
後花遣集

若菜とて人ありてしるしとて
本丸なとていひ
赤原

山邊御井

仙覺所より傳へけり國とて大和國とて
徳と傳へけりハ一姓ありて

山邊乃御井とてけり神國の御所とて
女ありて
万葉

二階堂

二階堂村よりけり乃堂のこもり建
立ハ十市郡天香久山乃水表あり今
二階堂ハ膳丈寺と号し膳丈娘の遠
是也

ハとてけりあり本宮の空虚を菩薩とて
きりともや押膳丈娘とてわや一の膳乃子
とて根芥とてけり聖徳太子の
後ハ一よりけりしるしとて
傳へけり又て家乃人乃子とて
橋寺乃折よのそり共あやハ乃
一向屋籠とて傳へけり太子
傳へけり乃女子の孫代あり
凡そと記されけり膳丈娘と
録ハ景行天皇乃御宇ハ膳丈
乃臣の姓代
後ハとてあり姓とてあり
是女あり右ハ山邊乃御井
山邊郡ハ大道の東ハ山邊乃御井

ありひの古蹟とらんしも乃あま
あり会田乃墓とその中よこせわりのめ

会田墓

会田墓の平白香皇女大和國山邊郡よ
あり延喜仁賢天皇乃皇女欽明天皇乃

母辰子

会道

奇枕よ或ハ越中國先達大和國と云
ハ雲津抄とて厚草大和國とあり兵
会田乃墓の石よそよりして一程あり

会道引平山

会道と引平山は姉と云て山徑のいさりの海

紅のゆぐぞり会道は此山の麓乃柵葉顯季

引平山

持り引平山乃時も雲霞宿もよとて入る

二階堂乃近所大道乃東の山際よ岩穴

ありよありゆぐぞり色けくはれぬがうりあ

予塚ハ山とんゆりよひの山とんゆり

乃乃山ひあけりとも色あはれは兵懸山懸

あど乃まんげりけりハ世中を記しよ

大和國大國魂社

大和國大國魂社 延喜

大和國一坐大國魂神 曰奉本祀云素戔嗚尊

見大威神大威神 見大國魂神 母須波比

神 大和神

二宮大威神

三宮須波比女神 兼右統

大和國大國魂神 大照太神と二神あり

てく天皇大殿の肉より作り後少事 日本

もぞゆる神代より代々十代紀年六百

余威ありて 正統 崇神 天皇乃御宇

神勢と怨もりともいに住居ありやと

けよりあまは天照太神ハ豊洲入娘命と

志く傷蓋逢色よ磯堅神 籬神と云

光緒又日本大國魂神と澤衣城入娘命

城志く由行くも後少事 衣城入娘命

おろりりやとく由行く事くより崇神天

皇あまの國乃肉わさぐり疾疫一死亡者

よととんとん國七の天皇は事さげ記

わ死時よ傷逢く日百襲姫命よ大物主神

著後ひく貴あり更よ由及よ我ハ是大物主

神あり我兒太田々根子成して我と

先よりありあり太田々根子命と神

主とく又市磯長尾市と傷國魂神と神

とくともは後より後天下太平

あり 崇神 天皇あまより 大國魂

と凡十七百七十二年

▲神降は貞觀元年の正月廿七日從一徳

寺領九百七十一石

同山金剛院永久寺の寺僧乃信と

真言傳法乃人なり其地五箇乃

乃衣あり延寶七年迄元五百六十年

▲蓋墨城落く後醍醐天皇志のびて入

山是なり

紀

山是なり

紀

▲真言宗醍醐金剛王院乃法流りて當山
方乃山即乃法流なり

來迎寺

肉山永久寺より二里半なるり

よあり

多田乃來迎寺乃善導大師乃遺像ハ彼大

師ニ從ひて入城八十七年

後日域來朝乃船よのり天牟實字七〇

第一の寺乃極樂

寺也此の寺より人なり此の春

大和國十市郡夜并乃三光寺より

ゆりて建曆元年乃亂遂より

回來迎寺より此の遺像

ハ僧に現ト僧又化して本像あり時あり
鑑後とけげ時ありまき新ありありて人の
よめがもその奇怪あり年縁起よりありてん
そり

笠向山

あらしより五里ごり巽俣乃通海あり

雲山形よ笠向山ハ大和國

とらりよりんる海乃里あり

山邊郡神若帳十三座

大和坐大國鬼神社三座

石上坐布留御魂神社

山邊御縣坐神社

夜都伎神社

都郡水命神社

白堤神社

都郡山に神社

祝の神社
下部神社

石上市神社
お雲速雄神社

和州舊跡幽考第十四卷終

